

# 異文化理解は寛容の精神で

## 高橋裕国際交流センター長に聞く



国際交流センター長に高橋裕商学部教授が4月1日付で就任した。任期は2年。国際交流センターの役割や異文化体験の効用などについてお聞きした。

「目的や期間などに応じて多数、展開されています。留学支援プログラムも充実しています。現在は東南アジア諸国との交流も盛んに行っており、今後も地に足のついた実のある事業を展開していきます。」

「留学や国際交流体験は、何をもちたらしめるのか。これは2003年から1年間、英国に滞在し、ブリ stol 大学で在外研究をした経験が、これまで留学体験は、海外は学芸、出張などで長くて1週間程度、英国滞在中は、単純なことから伝えられず、「こう言えば良かったのか」の繰り返しの結果、今では自信を持って国際的な舞台に臨めるようになりまし た。研究者との交流が広がり、多様な問題意識を持つようになったのは、英 国滞在以降です。」

「国際社会を生きる中で可能性を大きく広げるために、外国語の習得以外に必要なものは。自分の意見をストレスなく伝え、相手の意見を素直に受け取る力。これが語学力です。これができて初めて世界の中の自立した個人として認められるのだと思います。」

「さらに、昨年6月に開館した国際交流会館を拠点とする寮内留学プログラムは好評です。これは専大のキャンパスで講義を受けながら、協定校など海外からの留学生(日本語・日本事情プログラム及び日本理解プログラム)及び日本理解プログラム受講などの短期留学生や特別聴講生と生活を共にする、キャンパス内留学です。」

「留学生と寝食を共にすることで継続的な異文化への接触が実現し、留 学体験が得られます。学 習・コスト両面で手軽 が覆されることが往々に してあります。留学や国 際交流体験は変化に柔軟 に対応できる力をつけ、 前向きに取り組む姿勢を もたらしてくれます。特 に留学は、自らをマイノ リティーの立場におくこ とにより、さまざまな困 難に直面するでしょう。 これは他者へのいたわり の心を一層育み、人間的 成長を促すでしょう。」

### 寮内留学の 前期開講式

前期の「寮内留学プログラム」(8月10日まで)の開講式。写真が4月25日に国際交流会館で行われ、2年次生11人、3年次生4人の計15人が入寮した。



高橋裕国際交流センター長は「共同生活に行き違いはつきもの。感情的にならずに受け止め、考えたり話し合うことは皆さんを確実に成長させる」と激励した。

「いきなり海外に留学するのは不安。ここでの生活がトレーニングになれば(加藤大貴さん・人間科学2)という留学希望者のほか、実際に留学を予定している学生も。高橋里帆さん(経済3)は8月下旬から半年間の米国留学を控えており「積極的にコミュニケーションをとって土台をつくりたい」と話す。

「東京デイズニランドで接客のアルバイトをしている大森祥太郎さん(経済3)は「外国人と接することは多くても、深い話をする機会はない。共同生活で語り合うのが楽しみ。語学の上達に加え「留学生の気持ちや和むようにお世話したい(樋口菜緒さん・経営3)と語る入寮生も。ルームメイトは、5月

7日と6月6日が春期日本語・日本事情プログラムを受講するカナダ・カルガリー大生ら21人の短期留学生。6月19日と8月8日には、夏期同プログラム受講生に替わる。同室にはならないが、国際交流協定校の米国・サスカチュワン大学の「3000名」プログラムを受講生も滞在する。これに先立ち、昨年9月に新設された半年間にわたって実施された「寮内留学プログラム」の成果発表会・修了式が3月4日に行われた。日本語・日本事情プログラム及び日本理解プログラムの短期留学生や特別聴講生との共同生活を体験した1

期生14人は、国際交流会館での活動や留学生との交流についてパワーポイントを用いて報告。生田から神田キャンパスに通った田中岳樹さん(法1)は「留学生が親身に相談に乗ってくれてうれしかった」と振り返った。「人の縁、つながりは多くの刺激をくれた。もっとたくさんの人と関わりたい(村山帆奈美さん・経営3)、「目標に向かって主体的に行動する大切さを学んだ(草柳未来さん・文3)。大林守国際交流センター長(当時)から修了証書を手渡された1期生は、充実した表情で話した。(1期生の学年は3月時)

### 公開講座情報

協定締結10周年記念「3大学知的探訪」(多摩区・3大学連携協議会)の協定締結10周年を記念し、各大学が公開講座を開催する。本学(7月)を皮切りに、明治大学(10月)、日本女子大学(11月)が講座などを実施する。

### 国際交流イベント情報

第157回国際交流特別講演会「やさしい英語による経済学講座」  
▽日時 5月23日(土)6月20日(毎週土曜日)、全5回(9時~10時30分)▽場所 生田キャンパス975教室▽講師 クリストファー・ガン経済学部海外客員教授(ニューヨーク州立大学リンカーン大学)※学生の申し込みは国際交流事務窓口へ。  
@acc.senshu-u.ac.jp

留学生によるアジア理解講座ラオスコース 特別聴講生として本学で学ぶパンピバック・オレンさん(ラオス国立大学文学部日本語科5年生)が簡単なラオス語とラオス料理を教える。  
▽日時 5月27日(土)7月15日(毎週水曜日)、全8回(16時35分~18時5分)▽場所 生田キャンパス国際交流会館山田長満インターナショナルホール▽定員 10人▽受講料 3000円(テキスト代含む)

第12回海外留学・国際交流フェア  
1250)まで。

※各イベントの問い合わせは国際交流事務課(044-911-1250)まで。

### 2016入学 ガイド配布中

ご希望の方は左記にお問い合わせください。 入学センターインフォメーション  
【神田キャンパス】 ☎03-3265-6677  
【生田キャンパス】 ☎044-911-0794  
http://www.senshu-u.ac.jp/admiss\_int.html

専修人の新しい本  
書き込み式でやり直す！  
中学3年分の英語  
三浦弘監修

5年後の東京五輪・パラリンピックへの備えのためか、接客業をはじめとして英語学習のやり直しがブームとなっている。本書は、長年英語に触れていない社会人や英語が苦手な学生が、英会話学習の資格となる中学英語文法の記憶を呼び覚ますためのドリル教材である。英文は「主語+動詞」で始まるという意識を身につけるため、文中の空所に代名詞や短縮形

の存在を矮小化することはない(「エピソード」より)と、彼女たちの役割をひもとく。本書は官撰史書である六国史や古文書、木簡などから析出した1000人以上の女官の記述を基に、律令女官の制度と実態を復元し、ライフコースを描き出している。出仕ルーツから始まり、配属や日常業務、出世、俸給、結婚、引退や死に至るまで、女官の生涯をたどる。(吉川弘文館・本体1800円+税)

4月号3面の白藤博行法「学部長の「大好き専修大」で、「自分を変えないために自律的に変わってしまうのか」とあるのは、「自分を変えななために他律的に変わってしまったのか」の誤りでした。おわびして訂正します。

4月号11面の「高校別合格者数」で、以下の3校の高校名と合格者数の間が「中等教育学校」が脱着してしまいました。おわびして訂正します。▽茨城県/土浦日本大学3▽神奈川県/桐蔭学園5▽新潟県/村上市



古代の女性官僚 女官の出世・結婚・引退 伊集院葉子著  
日本に律令制が導入され、新しい国家づくりが進んだ8世紀頃、中央・地方の豪族から多くの女性が出仕し、力を発揮した。宮廷で天皇の政務と日常生活を支えた女官の女性官僚の仕事や生活とは？ 古代の女官を研究する著者が「律令制下の行政システム」の一端を担って働いた女官たち